

平成26年度アクションプラン重点事項に対する評価

(1) 業務効率化と魅力向上

- ・本県の自然、歴史、文化、産業等の理解が深まる資料を県内各機関から収集するなど、資料の充実を図ります。
- ・雑誌閲覧室を2階から1階へ移動、新聞閲覧室と一体化し利便性の向上を図ります。
- ・新しい図書館サービスを目指し、業務の効率化をはかり、図書館職員の資質を向上します。
- ・アクションプランを毎年見直し、県立図書館の中長期のあり方を図書館内で検討します。

- 県内の周年記念誌の刊行調査を行い、県内企業や学校、各種団体などの周年記念誌 256 誌（2月末）を新たに収集した。今後も、県内各機関から積極的に郷土資料を収集したい。
- 雑誌閲覧室と新聞閲覧室を一体化した新聞雑誌閲覧室は、利用者の利便性が向上し、利用者の評価が高い。
- 東海北陸地区公共図書館研究集会、文部科学省東海北陸地区図書館地区別研修、全国図書館大会等の研修会に延べ 15 名参加し、資質向上に努めた。今後は今以上に研修内容の共有化を図りたい。
- 県立図書館の中長期のあり方を検討するため検討委員会を 3 回実施した。市町村図書館支援など県立図書館が強化すべき業務を再確認し、次年度も継続して県立図書館のあるべき姿について議論を深めたい。

(2) 地域情報発信と情報化

- ・地域研究・ふるさと教育での資料の活用を促すため、企画展示等を行います。立山黒部等、地域に関する文献のリスト及びパスファインダーを製作し、県民に提供します。
- ・広く県民に情報発信を行うためソーシャルネットワークサービスを通じた広報の充実を図ります。
- ・郷土資料等のデジタル化を検討するとともにレファレンスデータを蓄積します。

- 企画展示を 12 回実施した。県関連機関との連携ミニ展示を行ったり、展示関連の文献リストを作成したりするなど、内容の充実に伴い関連図書の貸出が増加した。また、図書館見学・利用講習会の実施により、閉架図書の貸出を促すこともできた。今後は、企画展示の広報を早期に行いたい。
- 富山県図書館協会が『富山県郷土地図総合目録』を発行したことに併せて、地図についてのパスファインダーを製作し、図書以外の資料の活用を紹介した。次年度は項目を増やし、図書館利用の幅を広げたい。
- 地域情報発信ホームページ「まいぶれ」を活用した広報を始めた。2月末現在、アクセス件数は 3,663 件で情報発信ができた。今後は Twitter などの SNS を活用した広報に取り組みたい。
- 電子版行政資料の実態の把握に努めた。今後は、電子版行政資料の収集方法を検討したい。
- 郷土関係のレファレンスデータの蓄積に努めた。今後は、データの活用を図りたい。

(3) 学校教育への支援、関係機関等との連携とネットワークの構築

- ・高志の国文学館で県立図書館所蔵図書の受取や返却ができるようにし、県民の利便性向上を図ります。
- ・県立高校などの図書館と連携し、高校生の図書館利用を促進します。
- ・大学図書館と連携し、図書館の持つ魅力を発信し、図書館の利用を促進します。
- ・県議会図書室と連携したレファレンス情報、資料の提供など行政支援サービスに努めます。
- ・雑誌スポンサー制度を導入し、経済分野等との連携を推進します。

- 
- 高志の国文学館での受渡件数は、38件138冊（2月末現在）。今後も高志の国文学館での図書受渡サービスの周知に努めたい。
 - 県立高校の団体貸出登録14校、貸出数440冊（2月末現在）、昨年度（登録8校、貸出数261冊）に比べ増加した。今後とも県立高校の団体貸出サービスを周知し利用促進を図りたい。
 - 富山大学中央図書館と連携し、富山ビギナー展示・講座を開催し、30名参加した。これを契機に富山大学生の県立図書館利用が増加した。司書が出向いて情報交換するなど大学図書館をはじめとする学校図書館との連携を今以上に進めたい。
 - 行政関係者を対象とした県立図書館の活用方法の研修を実施した。議会図書室を通じた図書受渡は登録者23名、38件、82冊（2月末現在）で、今後もサービスの周知に努め、行政機関に役立つ図書資料情報を発信したい。
 - 20社の雑誌スポンサーにより27誌を配架することができた。導入時には各企業を紹介した展示を実施した。今後は、講演会などのイベントを実施するなど雑誌スポンサー企業との連携を深めたい。